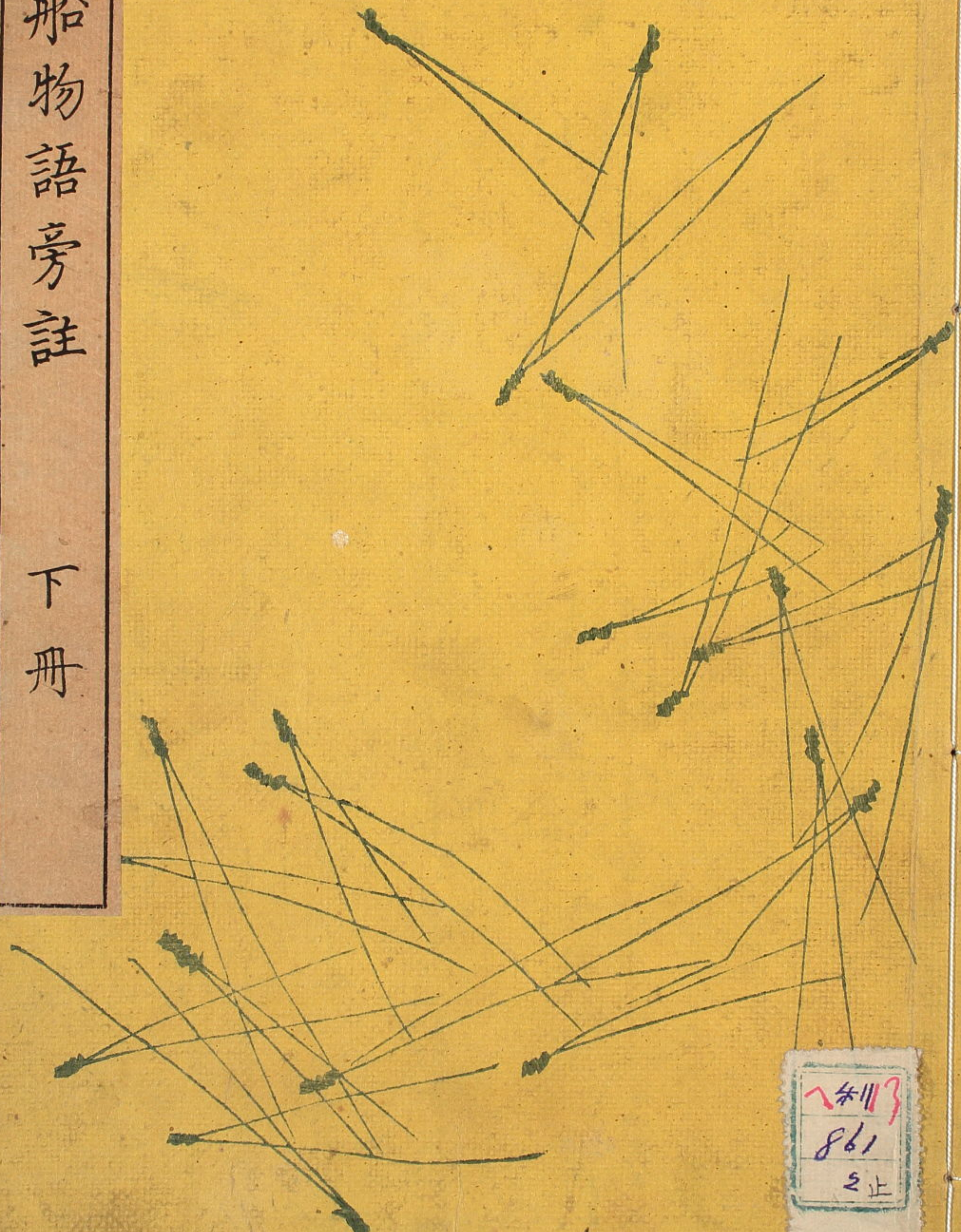




竺志船物語旁註

下冊



2113  
861  
2止





七

其一日二日此舟後ものゆるがさきもいと  
 せぬあつし〜まてあまの目教をま  
 すべさでいり<sup>過</sup>がゆる<sup>到</sup>ゆるがさより<sup>豫</sup>  
 うめ海のゆるがさゆるがさゆるがさ  
 法舟出れ<sup>速</sup>おそ<sup>遅</sup>ゆるがさゆるがさ  
 せぬ〜たる<sup>賢</sup>る<sup>保</sup>風者たるもかぢと  
 くのゆるがさ<sup>保</sup>ゆるがさゆるがさゆるがさ  
 りおそゆるがさゆるがさゆるがさゆるがさ  
 色<sup>氣</sup>ゆるがさゆるがさゆるがさゆるがさ

此の如く... 師の...  
如此  
 ...  
膝行  
眉  
顛  
極  
失  
長  
賢  
擲  
擲  
力

海の...  
危  
臆  
等  
揺  
巖  
飛  
在  
勿論  
供  
慢



とらめあひてせんぶやうにんかして  
かりれあき御座造 <sup>軟障</sup> ひてあめしやまう  
けの物どもよたごい <sup>荷出</sup> へいごりちま  
ふりより <sup>瓶子</sup> まもかろり <sup>出</sup> びんごりちま  
の中納 <sup>藻塩垂</sup> られ <sup>託</sup> ほろくつとやびぬ  
なるすま <sup>野篁</sup> へ <sup>野篁</sup> のれ園のあ <sup>小</sup> い <sup>野篁</sup> こ <sup>野篁</sup> さい <sup>野篁</sup>  
ま <sup>野篁</sup> さい <sup>野篁</sup> ひ <sup>野篁</sup> あ <sup>野篁</sup> さい <sup>野篁</sup> さい <sup>野篁</sup> ひ <sup>野篁</sup> あ <sup>野篁</sup> さい <sup>野篁</sup>  
さい <sup>野篁</sup> ひ <sup>野篁</sup> あ <sup>野篁</sup> さい <sup>野篁</sup> ひ <sup>野篁</sup> あ <sup>野篁</sup> さい <sup>野篁</sup>  
さい <sup>野篁</sup> ひ <sup>野篁</sup> あ <sup>野篁</sup> さい <sup>野篁</sup> ひ <sup>野篁</sup> あ <sup>野篁</sup> さい <sup>野篁</sup>  
さい <sup>野篁</sup> ひ <sup>野篁</sup> あ <sup>野篁</sup> さい <sup>野篁</sup> ひ <sup>野篁</sup> あ <sup>野篁</sup> さい <sup>野篁</sup>

れ <sup>海人</sup> こ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup>  
さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup>  
さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup>  
さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup>  
さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup>  
さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup>  
さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup>  
さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup>  
さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup>  
さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup>  
さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup> ひ <sup>海人</sup> あ <sup>海人</sup> さい <sup>海人</sup>

いのでその夕照をましく入られたりしよかざりし  
侍はんしてびもささるるえくびくおとろりうもえ  
これ事秋ありとゆかけられうきう浮く沉つゝハ  
いふくも河くばくさくからやらぬ人それ  
名をそ程きくうかれ朽こよひくまりん  
我とけたまはの月よ何うかれ侍も浮岩去り  
せうつりたうおたう移むうがうりしを  
なり侍移め

あうがう月を昔れこのまとしてう母  
記念

は今をいびくはんあめくばげよ由名残  
とめん浦の月をばく母の日の日す終  
侍はん

と青も浦は月毛んて光を  
なまよまかぐとぞらんあがうとのまをえ  
くそおほえ侍ぬといひ清浄よりものく  
してうをせあふ

童

の沖つ舟とまやまのちられ敷もさあ  
うよまゆの秋のよれ月

もほや〜くぶりも〜でんちのりゆふ  
 浦<sup>邊</sup>はれあまも月やめ〜ん<sup>後</sup>法庫れちりき  
 津<sup>等</sup>〜ちなぞれもありつ〜んを笑ゆ〜  
 ねだも〜ん更ちまよ月いあ〜すまで  
 さらばきたび〜めがれバ君のときまよう〜  
 めひて家園忘却〜ておす〜て例の  
 せのりたうの〜めふ〜ふ人〜ハ君れ  
無量飲侍  
 此の〜きたの〜づりの〜えん人もちあけま  
對 皆ちひこ〜ドて相伝岩〜これあよより  
困

ふせ〜を君らんめひてい〜ひたのきものども  
伏 うれ〜ぞちああるけ杯〜ま〜んとのめ〜どは  
誰 こそ笑ゆる人もねらね〜うら〜い〜い  
 てふ〜らあま〜人なりの〜も〜いあな〜あ  
樵夫海士 ぶ〜あ〜ん酒〜さ〜け〜ん〜めあ〜ば〜と〜  
律 まう〜で〜よ〜このめ〜ん〜守もる〜ひ〜か  
参来 くの端〜よ〜き〜てい〜のでは〜ん〜と〜と〜  
 か〜ら〜め〜げ〜た〜が〜あま〜い〜で〜〜り  
 つ〜れ〜毎〜人〜ど〜もの〜傳〜を〜あ〜〜と〜はね

しほつらぶりのよつとびいしとつらんちりとて  
めいあふ舟人とそをさるものちなるすあざの末よ  
うづあふぶよ守まらちつてけ舟人どあは  
いあづいひなるあざれの侍とそを名つす  
しほつれよしとびいしとつらんちりとて  
きよらうあふしとびいしとつらんちりとて  
れとわいのなる名ぞとのあづ守まらちと  
よづあわしとびいしとつらんちりとて  
ちとくつてあつらひのよつとびいしとつらんちりとて

興 有 事 好有 召 字 負 奇 丈 雄 太 肥 立

さほよとつらんちりとて  
すざれ侍ふあしの岩をもそふあつらひの石  
しほつれよとつらんちりとて  
侍とつらんちりとて  
しほつれよとつらんちりとて  
ちとくつてあつらひのよつとびいしとつらんちりとて

千人引之石 石投取 然 眼冷 力 瘦 小 此 柔 間 鮒鼠磨 眼赤



かろすやせいにまぢしき〜むねのさ〜いぞとねづ  
鳩鳥むねとついでに〜られとがり〜をほろがら  
といふ皆次々ついでに〜あま〜いづろ君名はさ  
〜より〜をまゐりていとめづ〜のたま  
かのどもうれまろ〜ま〜い〜らと見  
つゝもかくもよう〜興のどもとを  
ひのけぢり〜とてわ〜ひ〜君〜甚  
酒のともて〜唯のまよぬが、君もほ〜と  
き〜い〜どよ〜いよりはねの敷つ〜り〜  
競初夜

後たれば、えや〜え〜い〜とほ〜と  
づ〜のあやめもわのぼ〜起居  
は〜ち〜り〜子  
え〜も〜も〜子  
い〜り〜君〜あ〜い〜あ〜を〜か  
る〜よ〜おほ〜御寝  
守〜ら〜う〜か〜る〜い〜あ  
ぬ〜い〜あ〜い〜は〜車〜よ〜あ〜い〜あ  
ぬ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ  
率

いぢたし 抱 かま 搔 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
か 轉 ゑ 轉 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
ー  
な 馴 れ 馴 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
し 移 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
ー  
の 茵 ー  
輕 ー

法 軀 車 ー  
ー  
古 軀 車 十 文 軀 十 文 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
の 軀 ー  
の ー  
た 軀 ー  
た ー  
姫 君 一 ー  
る 容 貌 一 ー  
る 幽 一 ー

しづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく  
そよこころ 隨心裏 しづりおのりかきくしづりおのりかきく  
もるはほり 随心裏 しづりおのりかきくしづりおのりかきく  
をしづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく  
なごおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく  
れづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく  
く 景色 しづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく  
れ 標 しづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく  
身 標 しづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく

とろりしづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく  
よき酒ともみくしづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく  
たひ 盈 しづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく  
お 遅 しづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく  
里 遅 追風吹いそ 經 しづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく  
い 鏡 しづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく  
こ 實 しづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく  
よ 實 しづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく  
お 曲 しづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきくしづりおのりかきく

おれど一雨なほ<sup>ば</sup>君を<sup>清</sup>心く<sup>し</sup>めて<sup>て</sup>琴と  
歌ととりも<sup>出</sup>給り<sup>ば</sup>今<sup>は</sup>ひらの<sup>友</sup>を<sup>酒</sup>  
の<sup>ま</sup>か<sup>し</sup>ひ<sup>ん</sup>と<sup>ぞ</sup>な<sup>し</sup>ま<sup>は</sup>ま<sup>し</sup>や<sup>つ</sup>ら<sup>し</sup>  
れ<sup>舟</sup>人<sup>も</sup>も<sup>ろ</sup>も<sup>と</sup>純<sup>友</sup>が<sup>み</sup>ど<sup>か</sup>が<sup>げ</sup>ん  
と<sup>し</sup>く<sup>ら</sup>よ<sup>こ</sup>ろ<sup>を</sup>あ<sup>ら</sup>せ<sup>て</sup>い<sup>の</sup>ぶ<sup>ら</sup>い<sup>れ</sup>  
は<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>よ<sup>年</sup>を<sup>ら</sup>ま<sup>は</sup>ひ<sup>あ</sup>り<sup>ら</sup>る<sup>が</sup>純<sup>友</sup>  
の<sup>ま</sup>め<sup>ら</sup>は<sup>て</sup>後<sup>を</sup>氏<sup>を</sup>と<sup>り</sup>名<sup>を</sup>と<sup>り</sup>て<sup>て</sup>  
か<sup>ら</sup>ぬ<sup>ま</sup>の<sup>び</sup>た<sup>る</sup>を<sup>と</sup>ま<sup>は</sup>る<sup>人</sup>も<sup>た</sup>の<sup>ま</sup>  
々<sup>れ</sup>ど<sup>舟</sup>人<sup>と</sup>な<sup>り</sup>て<sup>ま</sup>は<sup>あ</sup>り<sup>し</sup>る<sup>た</sup>り<sup>し</sup>  
擗 棲 朝 廷 傾 桴 更 經

く<sup>り</sup>さ<sup>る</sup>は<sup>み</sup>あ<sup>ぬ</sup>ま<sup>の</sup>人<sup>の</sup>ひ<sup>ら</sup>ぶ<sup>る</sup>ご<sup>ら</sup>  
ゆ<sup>れ</sup>ど<sup>清</sup>い<sup>ま</sup>は<sup>い</sup>と<sup>の</sup>り<sup>く</sup>の<sup>志</sup>  
し<sup>る</sup>帥<sup>乃</sup>清<sup>舟</sup>出<sup>な</sup>し<sup>る</sup>が<sup>め</sup>の<sup>世</sup>を<sup>と</sup>  
の<sup>り</sup>め<sup>し</sup>る<sup>ま</sup>も<sup>ひ</sup>た<sup>ま</sup>の<sup>め</sup>い<sup>く</sup>し<sup>ら</sup>り  
し<sup>る</sup>ま<sup>の</sup>は<sup>清</sup>舟<sup>の</sup>人<sup>も</sup>救<sup>は</sup>ら<sup>れ</sup>  
て<sup>し</sup>る<sup>ま</sup>の<sup>よ</sup>の<sup>や</sup>う<sup>の</sup>め<sup>も</sup>お<sup>な</sup>ま<sup>は</sup>ら<sup>ば</sup>  
お<sup>の</sup>ぼ<sup>ら</sup>う<sup>あ</sup>た<sup>ら</sup>し<sup>ら</sup>う<sup>お</sup>の<sup>ひ</sup>な<sup>り</sup>て<sup>し</sup>  
ま<sup>の</sup>び<sup>し</sup>る<sup>あ</sup>ら<sup>か</sup>し<sup>ひ</sup>ら<sup>る</sup>純<sup>友</sup>ま<sup>の</sup>  
泥 輕 視 志



せんよ六。戸口かたのこよりさしつかへめこ  
種をいひせんそわづらふをいひまら  
ほそきいふあまきいふおきいひをいひ  
入て、今人とありずるまんをあらがねるこよまゆき  
よせこそある。られ強持まりのちをち。こち  
どもうがひとりてつま戸おひききそいで  
きぬからそはんやまき。岩をたぬが人も  
こそしれとて、おのふふとまちていひり

彼方

固  
舐鼠磨

慢  
傍

寝  
方

寄立有

放  
太刀

棄

とりをねちて、この人の急陰よいせよのす  
と、舟こぞりて志願人ねのりなり、あ  
人よむひてありとあらん人の皆さあ  
しつぐ。さしづの後のおそれあらん。そ  
空あわらちとらんことか。まよおとりま  
さりあるあ。ほまが。さ。姫君をばあれよ  
ほさせよ。た。失。なひまあ。うせそと。い。お  
その法んま。た。り。と。さ。ば。ら。う。な。づ。き。ぬ。波。風  
さ。と。ひ。い。れ。ば。年。を。さ。る。今。人。の。い。さ。ぎ。と。ま。さ。の  
颯

拳

殺

不然

互  
劣  
優

不可令有

諾

寢疾覚

ふとおどろきさてあや／＼はさま戸のぬき  
不圖驚 奇怪 彼奴  
はらへしうら／＼もよひにんてくやけり  
立  
おとれ／＼てさすそとらふかぢらめそろて  
音勿立 酸醬目  
たぢぬきをぬらてきぬがのけぢはよ／＼れ  
太刀 仰 倒  
ぬはあ／＼踏めさへては滅こそあさ  
目覚  
たれとそおあびぢたが／＼きやうとて矢  
寝 愕 騷  
やあ／＼んとすれが／＼強踏たの／＼こえり太刀  
中 絶  
そん／＼とま／＼し／＼ひ／＼い／＼な  
せん／＼と／＼な／＼と／＼た／＼と／＼と／＼と  
無所為 柵

のど／＼とす／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と  
逃 斬 墮御等  
た／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と  
泣 惑 上  
き／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と  
く／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と  
起  
／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と  
乱 御等  
た／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と  
鳥 鹿  
／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と  
強 傍 押 寄  
／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と  
振 放 拒  
／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と／＼と  
動 檻 身

ものようしうもよぶがりつけまわらうまて  
姫君背ともころりよけたまきぬわの君あおぢ  
おそねひて傍小方鳩は法神よかたれるよと  
むね引かたぶりのよせてはくびとつよくうぎ  
胸胸肘肘繰繰寄寄頭頭握握  
終終ババをやく息息息絶絶小方小方くう聲くう戦たのり  
しひてまのまゝ命言を皆はらよまうす  
ア命いのちひらく吾あはせぬ入任あが佛  
あがほけ吾け佛とのめく鉾は頭のうらわら  
ひて法愈をい愈も愈たのり法不のちも不後

くぞやかそ大かうらある入とらん賜乎  
ああわとのめく振はむくう體は兩  
段段よちのり帥浮れ浮たのり浮けて姫君  
をいおせひて段あまの父君れあは法  
つげあり告かゝるは表示なり  
を余まら余かたおのひ吾兒あ吾兒が吾兒いと諫  
め從も從ま從が從はず從か從よ從ま從は從たる從波從風  
は家のうら窮ざりていのち窮を窮ち窮む窮こと  
皆わの過あ過し過ら過い過ち過の過あ過ら過ぬ過こと





めん。君をばつてうー失なひたすまゐららん。うー  
 ありてかくあるとゞめまゐるなりとゞぞう  
 たて、心如此をれぬまゐびとよ。かくてまづー暫時もうけ  
 とゞむ無きいのちうらとて、ちかくひありん掛とす  
 を。はる更よおーとゞめまゐるせと。あたうーこ  
 を。も東まらせまふまづ。とゞありまか西ん東ま  
 も。はる東くろれま。うーそつ。うまは西めとて  
 はるよお指よびさう。あて。まのり。まね守がせん  
 うー存好ー指あてまゐる。うーたの存うーあらん存わづ

り。きものうーいのちきまゐらん。とつ。か  
 し。や。う。は。れ。う。ち。よ。い。の。よ。う。い。り。て  
 一。か。れ。が。め。を。め。す。ま。ま。ひ。て。と。く。志。ね。ん。と。お。あ。い  
 つ。け。ぬ。よ。は。は。け。て。ま。ま。お。ぼ。め。づ。う。ま。と  
 を。あ。れ。さ。人。世。よ。た。う。う。ん。ま。か。く。よ。う。ま。ま。な  
 る。り。う。家。う。ぞ。り。て。う。せ。ぬ。と。る。誰。う。う  
 らん。あ。う。ま。う。ま。き。わ。う。う。れ。い。り。よ。あ。い  
 て。お。ぼ。う。れ。よ。な。り。と。め。ま。せ。れ。人。の。い。ひ。て。や  
 や。ま。な。ん。か。く。う。ま。あ。ん。が。し。ま。よ。あ。い  
 止甚 敵

兼 拳 海 怒 計 將 難 東 西

てうらなをみせしむらうとあはるげぢをせし  
為怨よむらういせむらんあつと罪と重おれみきを  
をけ穢つらうよたあらおれんも時よらうて六物を  
かみまいのなむばやいめちたおことおせう  
と輕おがーなうてなむこおぬいあひてさ  
らばわれおぬまなむやわれを拭うらむ  
とはおの死とこものむしやうらうびて皆人  
おぬもむらうん頻おぬもむらうんあし  
侍れわれの君をぬて起まらんあうも  
為

いそろをさくしむらうとてやうてかさいいど  
きてまじり懐のうらうとほむらうとてまたて  
ぬ強いす無とてはむらうとておれ人してあり  
たくは強身をまらむあはむらうらうらいの  
づり無のありらんたはたむらうらうらう花乃  
枝よりもうとてぞおぼゆるむい鮎鼠磨あ  
くもむらうひてぬえんあふふのむらうら  
あよ聘づいめたむらうむらうむらう  
事  
ふも祝せいでいむらうらうむらうらうわ

ひて。げはさるるもちりいそ。あはらうちのけが  
しものどもかきしひて。あまのれ海を穢  
どもとりにいぞ。たのく拂さひのしる。ほろが  
しららさうらひさあて。くさひのくまはる頭  
あひそ。ねらうらお惜くさひことあり。娘君今  
る。舟もつうるよ。ほひあやうなうねも。  
いのでうほこれんも。おもあけあて。  
くめんえなんよ。いおねだうあてあひ  
ぬぐー。もー。あもあへん時。まづぐんおほく  
繼

いのあて。とひのうがなぶ。のぐんさくば  
なうん。せの問こころあうも。まよとをらん辞  
種勿な残のしそといわさあ。だやとのけ  
さもあもよとて。はれのもよよのあて  
ア人声がわげく作を。あしるはていでま  
ぬ。あひの声な作んおひとくさやさいんお。  
もけう領な状まて。われあおまてうり。今くさ  
いま過ん過れはらやあさうら。めんて。たかぬさ  
めらてま。はれらうらよ。入来抜姫君も持



まどふらん、舟もがくのまのゆへにやうりせ  
迷 まどふらん、いつたるあゝ波よあひてふ  
 ひられ、底よ志どきもせんもせんかじ  
尋 舟もがくおのやうなる後とんははれど  
 さしも悔いちかおのらん、わづらひのうらな  
 のすこぎさいゆるりよてら、めつともにかき  
縁 めもばんしおのづか、たゞどもわら  
各 とりて、流とくそかくまゝとして、さらさら  
寶 ちかへん、このひびたがら、たのよくの調てう  
唐櫃 並、唐櫃長櫃何是  
許多 辛 苦  
輩

度どども、皆ひびりて、あゝとらりう  
撰 づか、ゆゑもまをばらなむ、おのころをれ  
行方 およふとあひり、おそれて、かくひらぬ後  
不堪言 づられ、あめ、いふまは、かほりて、かゝ時  
心裏 うらぬ、あゝと、舟もがく、あゝと  
難 おのど、あゝと、あゝと、あゝと、あゝと、あゝと  
強 まし、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
荒 まし、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ  
謙 娘、たれ、は、い、の、底、い、い、の、で、ら、ん、の、ま、い  
知

身は日成りひ引出んころ。さめれまへりま  
害 終るよ。これまでのえり。さそあり終。  
目 今はおろぐぬまきかたさひぬまをいりて  
不及 して。後のおそれあせとほくおひ  
勿 たりて。おれをたようらまひそ。我のそて  
事 長く来よつて。まほしんと思付れど。每人  
強 どもさへうけ引付らぬ。まよをたひて  
生 けまぬ。ぬも。ん。い。の。で。う。た。ぐ。あ  
他 らせ。て。ま。う。ん。あ。い。の。の。よ。う。さ。あ  
憂

心もらんよりの。われこそ。ほれけ人見  
魂 きて。ま。つ。あ。あ。の。い。ご。佛。念。ど。ま  
果 と。は。終。れ。の。う。を。引。き。り。て。は。く。び。を  
片 わたぎ。そ。し。よ。く。ひ。は。ぶ。す。ぬ。ら。ち。臨。入。臨。ひ  
端 ぬ。し。あ。ん。よ。か。る。る。あ。い。と。て。は。終。お  
頸 ひ。ま。そ。い。て。ま。て。の。ま。よ。毎。人。一人。だ。よ  
帳 あ。い。で。ち。あ。う。し。な。ち。あ。ら。う。ら。う。ら。う。ら。う。ら  
蓋 たるもの。ま。ら。う。ぐ。く。う。ら。う。ら。う。ら。う。ら  
打 り。あ。い。は。て。ら。あ。い。を。い。あ。の。い。た。の。と  
毀 荒 言 詮

思ひて心すてきもくろきされどつづせん  
 粒とりはらひしる実もどつゝあれ  
離  
 ぐりつんねどつゝよ物いつゝなつゝ  
有乎  
 よつめるもれきどつゝ底よれお  
罫  
 けらあるをとりてんねば帯なり  
物  
 るおどいの實とほたのもあんたの  
累代  
 いあるもよれ者のあたるは思ひ  
有  
 かけぬあつゝをこそうべなれとおまひて  
價  
 ふしつゝよおしつゝやつてのしつゝ  
懐  
押  
包  
得  
戎  
狗  
振

しつゝいりのとつゝなまきつゝなめちつゝ  
邊  
 もよきやあなる母をちつゝれつゝ  
切  
 のつゝよおしつゝば舟を波よつゝ  
漂  
 るをかくりつゝよせだあつゝあゆ  
出  
 高げつゝつゝよげつゝりぬつゝ  
足  
疾  
歩  
 うきつゝれゆへつゝありん  
逃  
 つぎれつゝよつゝ

浮  
舟  
行  
方



Handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a page from a manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper and is arranged in several horizontal lines. The characters are highly stylized and difficult to decipher without a key.

つれくたふ流之定めりし事なきに  
まじりし縁もはらふことなし  
一よりかよふつれなきも父の  
まぢりし縁もはらふことなし  
一縁いつれ今もなき事あり人  
か計れるむしはらふはあらず  
かのつれなき縁もはらふことなし  
いふにさかあつれなき事あり

し建しよるん出ししはは城かしえ  
さ回子清ぬし可く来まりてこ大人  
けは草しきとんいそあがれつてせ  
かりかきまはなかり事えはははは  
いふにはくしうあ免を備ひたんまは  
をいひての物の屋しえくししてをて  
孫りん板よるりて人いあそんせま  
し草紙をそわおせしおのしよまに

まのしひたむと替ちよいさかあられ  
しとるねもよまのしかりきまこと  
まはくしよとくはなせせん人まあ  
やなとあまわいしうかきまぬし  
しえりねのみ父のまにうさうし  
かみむはりれつてはれ毎そそかうねん  
替しよ今りしとを理とまあうやんそ  
かの世にそとなられて替れまにまひ



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, filling the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, filling the page.

此首三  
白石灘頭夜色好  
題辭  
錦翁元是錦為腸  
寫  
出悲歡  
善一  
場誰  
續  
遺  
恨  
親  
仇  
未  
報  
此  
首  
三  
白石灘頭夜色好



中好伴月明成何圖  
一棹狂風起倒吹波  
瀾來打船  
酒能為病箇生事此  
翁女篇莫酒義不  
為女兒雙淚下泥來

跋五

我二醉沈  
交化甲戌初夏訪佛  
老人  
精善



Handwritten text in cursive script (sōsho) with two red square seals. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.

俳諧歌論

松屋高田先生著

前後編二十卷

前編十卷、分<sub>テ</sub>第三卷、為<sub>ル</sub>上中下三本、

後編十卷、共<sub>ニ</sub>二十二冊、其<sub>レ</sub>一二之卷、

文化九年刻、三<sub>ノ</sub>之卷三本、今茲刻<sub>ス</sub>。

文化十一年歲次甲戌春二月

江戸梓行 須原屋茂兵衛

書林 京都 勝村治右衛門

大坂 大野木市兵衛

